

AviUtil による文字 PV の制作

1. 研究テーマ概要

(1) 研究目的

アニメーション効果の表現手法、簡易ツールの把握から創造的な演出、表現を可能にします。

(2) 概要

レイヤーの編集より図形を背景に変え、テキストのフォントはメイリオを主にします。BGM、マンボウ二等兵様より「トーチ」の挿入、簡単なアニメーショングラフィックスを使用し動画を作成していきます。

(3) 研究動機

文化祭に友人が制作したアニメーション動画を観て、私も視聴者の心を引きつける表現技術に興味を持ちました。しかし、実際に動画編集ソフト「AviUtil」を使い始めたところ、基本的な操作はできても、自分が面白いと感じるようなアニメーションを意図通りに作成することの難しさを実感しました。そこで、「AviUtil」を用いて、視聴者にとって「見やすく、かつ面白味のある」動画を制作するための具体的な表現手法を探求することを目的としました。特に、作品の魅力を高めるアニメーションの活用方法に焦点を当て、効果的な演出パターンを学び、実践を通して技術を習得することを目指します。

2. 研究課程

(1) 使用機器やソフト名

windows11 環境の PC , AviUtil 110 ver1.10

経費はネットからのダウンロードのため 0 円です。

(2) 取り組み内容

Aviutil は課題研究をするまであまり触ったことがなかったので 1 学期の大半を基本的な操作とアニメーションの種類、効果の把握に使います。動画は主に YouTube から完成動画を閲覧し、アニメーション効果の種類や AviUtil の操作方法を学びます。Aviutil を入れても最初はアニメーション効果の種類が無いのでアニメーションを追加させるため 4 月後半に Getcolor をダウンロードしました。一度取り入れたアニメーションを一通り確認し、簡単なものから使用し覚えていきました。

(3) 制作過程

図 1 は動画制作の作業の様子です。レイヤーにアニメーションを入れて、曲に合わせてアニメーションの編集を行う場所です。図 1 の左上の図は編集している画面です。右上は編集後再生して、確認するための画面です。これらはメディアオブジェクトからカスタムオブジェクトでホログラムにしました。

AviUtil を開き、レイヤーからカスタムオブジェクト、図形、テキストを取り込み、自分のアイ

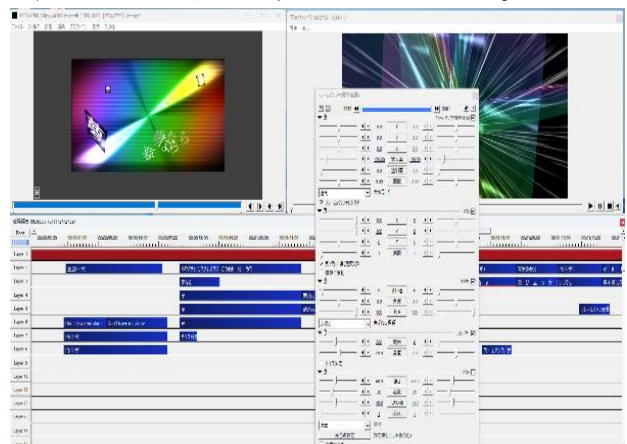


図 1 作業画面

デアだけでカスタムしていきます。

図2はカスタムオブジェクトを拡大したり、明度を変えたり、回転したりすることができる設定画面です。今回の作品ではこの編集を用いて、アニメーションの個数や彩度の変更を学び、様々な動画を作ることができました。形状の編集は種類が多いのでお勧めです。

(4)制作時間

1学期の4月から12月の8ヶ月間です。

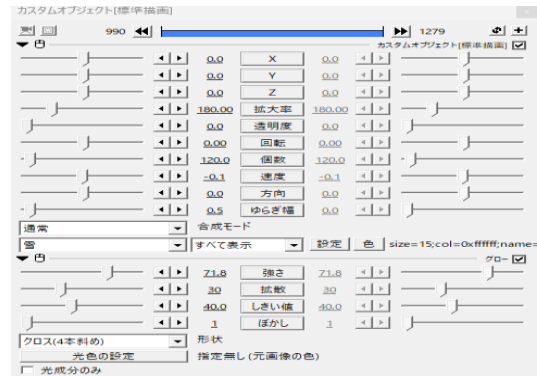


図2 アニメーション編集

3. 研究成果

図3の Showtime の周りは画像ループで縁を白にしました。TA バラバラと同時にアニメーションを使いました。TA バラバラとは文字の大きさや列を揃えずに表示できる演出のことです。字体を丸くして真ん中は白で埋めました。図4では図3と同様にTA バラバラと同時にアニメーションを使いました。さらにカラフルな背景にするため、カスタムオブジェクトからホログラムを使用しました。



図3 Show time

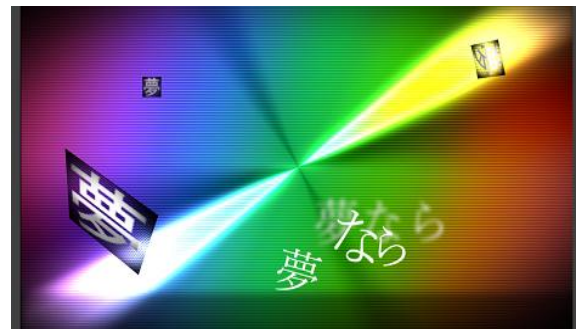


図4 ホログラム

4. まとめ・感想

興味本位でやってみようと思った AviUtil を約8ヶ月でここまで操れるとは微塵も思いませんでした。殆ど動画制作の知識もないまま制作を進めていく中でアニメーションの使用方法やツールの位置、機能は練習を積み重ねて覚えていきました。4月から5月にかけて自分の好きな曲に合わせてPVを制作しましたが、曲に合う演出が無かった為、合同の曲にしました。完成した後もアイデアが浮かんでしまうため、作品を見直し、納得のいかない箇所は訂正を繰り返しました。1学期は授業でも動画ソフトを扱わないため独学で進めなければならない現実に躊躇していました。友人からの教えやネットからの助けにより8ヶ月間で完成に間に合いました。AviUtilは動画編集ソフトの中でもグラフィックの種類が豊富で比較的簡単なので色々な動画編集ソフトに手を付けていこうと思いました。

5. 今後の課題

AviUtilで得た知識を元にAfter Effectsやその他の動画制作アプリの使用に活かせればと考えています。アニメーション効果では、歌手の文字PVに用いられるカメラ制御やスクリプト制御により躍動感溢れる文字PV制作に取り組んでいきたいと考えています。また文字PVは画面の情報量が多いほうが文字PVとして成り立つと言われていますが、いかに少ない情報量で視聴者にインパクトを与えるか、も魅力の一つになっているので新たな挑戦には最適だと思いました。